社会科学習指導案

日　時　令和８年２月 24 日(火)
５校時 13:40～14:25
学校名
対　象　第６学年　組　名
会　場　３階　６年　組　教室
授業者

１　小単元名

日本とつながりの深い国々（新編新しい社会６　政治・国際編）（東京書籍）

２　小単元の目標

グローバル化する世界と日本の役割について、外国の人々の生活の様子などに着目して、地図帳などの各種の資料で調べ、まとめ、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現することを通して、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は多様であることを理解し、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に、社会の一員として、異なる文化や習慣をもつ世界の人々と共に生きるために大切なことなどを多角的に考えようとする態度を養う。

３　小単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　外国の人々の生活の様子などについて､地図帳などの各種の資料で調べて必要な情報を集め､読み取り､日本の文化や習慣との違いを理解している。 ②　調べたことを図表や文などにまとめ、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の暮らしは多様であることや、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解している。	①　外国の人々の生活の様子などに着目して、問いを見出し、日本の文化や習慣との違いについて考え、表現している。 ②　世界の国々の文化や習慣は多様であることとスポーツや文化などを通して他国と交流することを関連付けて、国際交流の果たす役割を考えたり､学習したことを基に､異なる文化や習慣を尊重し合うために大切なことなどを多角的に考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。	①　外国の人々の生活の様子などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②　学習したことを基に、世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとしている。

４　指導観

⑴　単元観

本小単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）第２章 第２節 社会 第６学年を受けて設定した。

２　内容

⑶　グローバル化する世界と日本の役割について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

㋐　我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は、多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。

㋑　地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

㋐　外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現すること。

本小単元は、内容⑶アの㋐を扱っている。我が国と経済や文化の面でつながりの深い国の人々の生活は多様であることを理解した上で、スポーツや文化を通した様々な国際交流が行われていることを捉え、異なる文化を尊重し合うことの大切さについて理解できるようにすることが目標となる。

なお、内容の取扱い⑶のエ「イについては、世界の人々と共に生きていくために大切なことや、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。」に示されている「今後、我が国が国際社会において果たすべき役割」については次の小単元で扱うものとする。本小単元では、「しらべる」段階で日本と諸外国との文化や習慣の違いを調べた上で、世界の人々と共に生きていくために必要なことについて考える活動を行う。さらに、「まとめる」「つなぐ」段階では、その理由や意味まで含めて意見をもち、友達の様々な意見と比べることで、「異なる文化や習慣を尊重し合うこと」をより多角的に考えることができるようにする。

⑵　児童観

本学級は、社会科の学習に意欲的に取り組む児童が多い。一方、自ら問いを立て、主体的に問いを追究していくことが苦手な児童も多い。４月当初、「社会の学習は好きですか。」と質問したところ、肯定的に回答した児童は 27%、否定的に回答した児童は 73%だった。肯定的に回答した児童は、「いろいろなことを知るのが楽しい。」といった回答が多かったが、主に学習塾などで先行して学習している児童で、単に知識を得ることに楽しさを見いだしている様子だった。否定的に回答した児童は、「ノートをたくさん書くのが面倒くさい。」「覚えることが多い。」といった回答が多く、教師の話を聞いて黒板をノートに写す、講義形式の学習を嫌がっている傾向が見られた。

こうした実態を受け、４月から、授業では「思考・判断・表現」を重視した指導を行ってきた。また、与えられたものを知識として得るだけでなく、自ら問いをもち、主体的に問いを追究する中で知識を獲得していく良さを実感する問題解決的な学習の流れをつくってきた。現在では児童の多くは進んで問いを追究しようとする姿が見られる。本小単元でも、「つかむ」段階で既習事項とのつながりの中で問いを見いだし、「しらべる」段階では調べた内容を調べた内容を図解化、文章化、キーワード抽出など児童が選択した方法で主体的に獲得していけるよう指導する。

外国の人々との関わりについて、児童は第１学年から毎年外国人留学生と交流し、外国語の授業でもＡＬＴと関わりをもっている。しかし、９月に行ったアンケートでは、「様々な国の人と交流したいですか。」という問いに対し、肯定的に回答した児童は 61%程度だった。また、自由記述では、ニュース等で見聞きした外国の人々との問題を挙げ、「迷惑行為をしないでほしい。」「問題を起こすなら来ないでほしい。」といった否定的な意見も 32%あった。本小単元では、「しらべる」段階で外国の文化や生活について確かな知識をもち、「つなぐ」段階で自分たちにできることを考える。外国の人々との関わり方について、伝聞ではなく、学んだことを基に、友達との交流を通して考えを広げたり深めたりして、よりよい未来をつくっていこうとする態度を養っていく。

⑶　教材観

本教材は、我が国とつながりの深い国々の人々の衣食住や学校生活、気候や地形の特色に合わせたくらしの様子、国民に親しまれている行事やスポーツなどについて児童が調べ、日本と外国との共通点や相違点について考えていく。日本とつながりの深い国は多岐に渡るが、児童の問題解決への主体性を育むために、調べる国は児童が興味・関心や問題意識に基づいて選択できるようにする。その際、第５学年の産業や第６学年の歴史の学習など、既習事項を参考に経済や文化などの面でつながりの深い国を想起できるようにする。ただし、文化や習慣には多様性が見られることについて具体的に考え理解することができるよう、取り上げる国が特定の地域に偏らないよう配慮する。

「つかむ」段階では、自分の身の回りも含めて、日本に外国人が多くなってきている現状や、異文化での交流における課題にも目を向けられる資料を扱い、「外国の人々との関わり方」に着目した学習問題や学習計画につなげていく。「しらべる」段階では、単に様々な国の特色を調べて学習が終わらないよう、外国の人々との関わり方を考えていく視点がもてるような資料を扱う。「まとめる」段階でも同様に、調べた国々の特色を伝え合って学習を終えるのではなく、それぞれの国が大切にしている文化や風習、日本との共通点や相違点など、視点を定めた上で児童が考えたことを適切にまとめることができるようにする。

「つなぐ」段階では、小金井市で日本人と外国人を結び付けようと努力している人々のはたらきを資料として扱う。異なる文化や習慣を尊重し合う大切さは、「自分の町でも、自分自身にも必要だ」という切実感を児童がもてるようにすることや、本小単元を通して得た知識や思考を、実生活の場と結びつけて考えることをねらう。また、今後も日常生活の中で、世界の人々と共に生きていくために大切なことを考え続ける態度が身に付くことを目指す。

５　年間指導計画における位置付け

１．わたしたちの生活と政治	わたしたちのくらしと日本国憲法	８時間
	国の政治のしくみと選挙	５時間
	わたしたちの願いを実現する政治	７時間
２．日本の歴史	縄文のむらから古墳のくにへ	８時間
	天皇中心の国づくり	６時間
	貴族のくらし	３時間
	武士の世の中へ	６時間
	今に伝わる室町文化	３時間
	戦国の世から天下統一へ	６時間
	江戸幕府と政治の安定	６時間
	町人の文化と新しい学問	５時間
	明治の国づくりを進めた人々	６時間
	世界に歩み出した日本	６時間
	長く続いた戦争と人々のくらし	７時間
	新しい日本、平和な日本へ	８時間
３．世界の中の日本	日本とつながりの深い国々（本小単元）	９時間
	世界の未来と日本の役割	６時間

６　小単元の指導計画と評価計画（全９時間）

段階	時	目標	○　学習活動　・　予想される児童の反応 ◆　主な問い	□　指導上の留意点 ※　資料 【評価規準】（評価方法）
つかむ	第１・２時	我が国とつながりの深い国の人々について関心をもち、学習問題をつくり、追究の見通しをもつ。	◆　日本は外国とどのような関わりがあるのだろう。 ○　日本と外国の関わりについて話し合い、表にまとめる。 ・　米、暦、漢字など、日本は昔から様々な文化や技術を外国から学んできた。 ・　元寇や第二次世界大戦といった戦争など、外国と戦うこともあった。 ・　現在も、貿易や観光などの産業や、万博やオリンピックといったイベントなどで様々な国と関わっている。 ○　理想とする将来の様子について話し合う。 ・　やはり一番は、平和であってほしい。外国との戦争は、もう起きないでほしい。 ・　日本の良さを世界に広めて、外国の良さは日本に取り入れて、世界が発展してほしい。 ○　外国人とのトラブルについての事例を知り、疑問に思ったことや追究していきたいことを話し合い、学習問題をつくる。 ・　外国人とはトラブルもあるが、平和に暮らしたい気持ちは私たちと同じではないか。 ・　共同生活でトラブルが起こっているが、日本人だけでなく外国人も困っていると思う。どうすれば解消できるのだろう。 学習問題：わたしたちは日本人として、外国の人々とどのように関わっていけばよいのだろう。 ○　学習問題に対して予想し、予想を基に学習計画を立てる。 ・　まずは外国の人々の生活の様子や文化を知	□　既習事項から日本と外国の関わりを考えることで、既習事項を踏まえてこれから「国際」について学習していく意識をもつことができるようにする。 ※　過去の教材（第６学年の歴史の教科書・資料集、第５学年の社会科の教科書・資料集） □　作成した表を確認することで、人々の相互関係など社会的な見方・考え方を働かせて考えるようにする。 ※　外国人人口推移グラフ（1980～2024 年） ※　外国人が多く住む町の様子 □　外国人の思いにも目を向けることで、外国人と日本人の両方に視点が向くよう促す。 ※　地図帳・地球儀 □　これまでの学習や身の回りのものを振り返

			ることが大切だと思う。特に、日本との関わりや、同じところや違うところを調べる。 ・　全世界は調べきれないので、日本とよく関わっている国を優先して調べたい。 ・　外国の人々と良い関係を築いている人の話を聞くと、関わり方が分かるかもしれない。 ・　ネパール人の友達がいるから調べてみたい。 ・　多くの国について知りたいので、友達と手分けして調べて、後で交流したい。 学習計画 ○第３～５時「しらべる(自由進度学習)」：日本とつながりの深い国を調べる。国の位置、日本とのつながり（産業や歴史上の関わり）、人々の生活や文化の様子、日本と同じところや違うところなど。 ○第６時「しらべる」：外国の人々と良い関係を築いている人の話を聞く。調べた内容を友達と共有する。 ○第７時「まとめる」：学習問題に対する自分の考えを表す。	りながら計画を立てることで、国の位置や人々の相互関係など社会的な見方・考え方を働かせながら調べることができるようにする。 【イ－①】 【ウ－①】 （発言・ノート記述分析）
以下、第３時～第５時までの「しらべる」段階は児童が内容や方法を選択する自由進度学習とする。				
しらべる	第３・４・５時　自由進度学習	外国の人々のくらしの様子などについて、地図帳などの各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、日本の文化や習慣との違いを理解する。	◆　日本とつながりの深い国の人々の文化や習慣はどのようなものがあるのだろう。また、日本と同じところや違うところはどこだろう。 ○　日本とつながりの深い国々について、国や調べる内容を選択して調べ、まとめる。 調べる国の例 ・アメリカ　・中華人民共和国　・フランス ・ブラジル　・大韓民国　・サウジアラビア ・オーストラリア　・ロシア　・ネパール 調べる内容の例 ・食べ物　・衣服　・住居　・小学校の様子 ・盛んなスポーツ　・大事にしている考え方 ・宗教　・産業　・日本とのつながりや交流 自由進度学習について ・調べる国を自分で選択する。 ・調べる方法を自分で選択する。 ・まとめ方を自分で選択する。（例：図解化、文章、表、キーワード抽出など） ・　アメリカでは野球やバスケットボールが盛んな点が日本と同じで、スポーツを通した交流も活発に行われている。 ・　サウジアラビアのイスラム教の人たちは、豚肉を食べないところや、一日に何度もお祈りをするところが日本とは違っていた。 ○　本時の学習を振り返る。 ・　学び方インターネットで調べたが、情報量が多すぎて必要な情報が分かりにくかった。次回は教科書と資料集を使って調べたい。 ・　学びの内容中国の小学校が９時間授業だということに驚いた。他の国は何時間授業なのか、友達とも調べた内容を共有したい。 ・　学びの内容ブラジルで多く採れる農作物について調べた。日本には鉄鉱石も輸出していると資料で見たので、次回は産出物を調べる。	※　地図帳・地球儀 ※　図書室の本 ※　小金井市図書館の本 □　児童の個々の学習進度を尊重し、主体性を高めるために自由進度学習の形態で学習を進める。前時に立てた学習計画を基に、国や内容を選択して調べ、時間内に調べ終わった児童は他の国も調べるようにする。 □　外務省ホームページなど、調べるのに有効なサイトのリンクを児童のタブレットに配信することで、インターネットを効果的に活用できるよう支援する。 □　毎時間の初めに本時の学び方の目標を設定し、最後は必ず学習の振り返りを行うことで児童の自己調整力を高め、自ら学び続ける力を育てる。振り返りは自己の学びを客観視しやすくするために、学び方、学びの内容の二つの観点から考える。 【ア－①】 （ノート・ワークシート記述分析）

	第6時	外国の人々のくらしの様子などについて、必要な情報を集め、日本の文化や習慣との違いを理解している。	◆　外国の人々と良い関係を築いている人は、どのような関わり方をしているのだろう。 ・　ガーナの方が日本で働き始めた頃は、時間を守る文化に驚いていたが、日本のやり方に合わせることで良い関係を築けた。 ・　アメリカ人と働く方は、宗教に配慮して、日曜日は仕事を入れないようにしていた。 ○　これまで調べてきた外国の情報を友達と伝え合い、ワークシートに記述する。 ○　本時の学習を振り返る。 ・　外国とは文化や習慣が違うのは「当たり前」だと知り、受け入れることが、良い関わり方への第一歩なのかもしれないと思えた。 ・　私が調べたアメリカには、日本と異なる文化があった。しかし、友達が調べていたアラブの国にも、日本ともアメリカとも違った文化や習慣があった。友達と情報共有して、世界の国々の多様さを感じた。	※　外国の人と関わる人の話（日本人・外国人） ・　日本人の話と外国人の話をどちらも知ることで、多角的に理解することができるようにする。 □　自分が調べていない国を調べた友達と伝え合うよう促す。 □　考えを広げたり深めたりできるよう、情報共有の際は、聞き手は感想を伝えるか質問を行うように促す。 【アー①】 （ノート・ワークシート記述分析）
まとめる	第7時	調べたことを図表や文などにまとめ、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解する。	○　前時までに調べた様々な国の文化や習慣を学級で表に整理する。 ○　学習問題に対する自分の考えを記述する。 ◆　わたしたちは日本人として、外国の人々とどのように関わっていけばよいのだろう。 ・　「文化の違いを認め合う」アメリカは日曜日に礼拝する人が多い点で日本と違うが、野球が好きな点では同じだった。違うところを否定せず認めて、日本人も好きな野球など、同じところで交流して関わりを深めるとよい。 ・　「外国のことを知る」例えばサウジアラビアの人がラマダンの日中にご飯を食べないことを知らないと、驚いて失礼な態度をとってしまうかもしれない。相手の文化や習慣をよく知ることで、よい関わりができると考えた。	□　「しらべる」段階ではまとめる方法を自分で選択していたが、ここでは全員で共通した形式の表に整理することで、調べた内容を共有しやすくする。 □　学習問題に対する自分の考えは、「『項目』理由」の形式で記述することで、多様な考えを整理して記述できるようにする。 【アー②】 （ワークシート記述分析）
つなぐ	第8時	学習したことを基に、異なる文化や習慣を尊重し合うために大切なことなどを多角的に考えたり選択・判断したりして、適切に表現する。	◆　小金井市で外国の人々と盛んに関わる人はどのように関わっているのだろう。 ○　外国の人々と関わる人は、どのようなことを行っているか調べる。 ・　小金井市の職員は、ミニ運動会やうどん打ち体験会など交流イベントを行っている。 ○　外国の人々と関わる人が、何を大切にして活動しているか考える。 ・　小金井市を、誰もが一緒に生活できる町にしていきたいと願って活動している。 ○　本時の学習を振り返る。 ・　外国人と関わる場は身近にもたくさんあった。東小の体育館でもイベントが開かれていると知り、自分も参加してみたいと思った。	※　小金井市で外国人と関わる方々の話 ※　小金井市の国際理解イベント □　小金井市の方々を教材として扱うことで、児童の身近な場所でも外国の人々との接点があることに気付くようにする。 【イー②】 （発言・ワークシート記述分析）
	第9時（本時）	世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとする。	◆　世界の人々と共に生きていくために、わたしたちには何ができるのだろう。 ○　学習問題に対する考えの中から、「わたしたちにできる（やりたい）」と考えたものを順位付けし、グループで共有する。 ・　私は「外国語を学ぶ」を一番しっかりやって	□　あえて順位を選択することで、内容や意味について考える。 □　ピラミッドチャートで考えを視覚化しながらグループで伝え合う

			いきたい。文化や習慣の違いを認めるには、相手が伝えたい内容を正しく理解できたほうがよいと思うから。 ○　グループで話し合ったことを全体で共有する。 ・　このグループは、最終的に「外国人と話す」を上位にした人が３人になった。私は、初めは「外国について調べる」を上位にしていたが、友達がまず交流してみることが大切だと言っていて、納得したので順位を変えた。 ○　本時の学習を振り返る。 ・　「みんなで多様性を認め合うのは大切」と思ってはいたが、具体的に何かしようとは思わなかった。今回の学習を通して、自分にもできることがあると意識でき、以前よりも、その大切さを実感できるようになった。	ことで、多様な考えに触れることができるようにする。 □　友達が上位にした項目について、理由や意味も含めて共有することで、世界の人々と共に生きていくために大切なことを多角的に考えることができるようにする。 【ウ－②】 （ワークシート記述分析）

7　指導に当たって

研究テーマ「児童が主体的に問いを追究し続ける問題解決型学習の実現」を目指し、本小単元では以下の四つの手だてを講じた。

⑴　<u>児童の思考を深めるための、選択・判断を迫る問いの工夫</u>

児童はこれまでも、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、外国語活動の時間といった授業や学校行事を通して、異なる文化や習慣への理解につながる学習を行ってきている。そのため、本小単元を学ぶ前から「様々な文化や習慣を尊重することは大切。」「多様性を大事にしたほうが良い。」と知識をもっている児童がほとんどだと考えられる。

そこで本小単元では、「まとめる」段階で上記のような考えが出た後に、「つなぐ」段階で、それらの考えの中から「自分ができる（やりたい）こと」を選択するよう促す。その上で、選択した理由を児童に問い、改めて自分の考えの意味を言語化する場面を設定する。これにより、単に「文化や習慣を尊重することは大切」と知識をもっていた状態から、「その結果、具体的にどうなるか」等、より深く考え、異なる文化や習慣を大切にしようとする態度をより深められるようにする。

⑵　<u>地域教材や地域人材を活用した、学習内容と実生活を結びつけるための資料の工夫</u>

児童はこれまでの学習や、テレビ番組等の生活経験を通して、外国について様々な知識をもっている。しかし、知識はあるものの、外国の人々が自分たちの生活とどのように関わってくるか、自分たちが住んでいる町でどのような接点があるかは深く考えていないと考えられる。

そこで本小単元では、「つかむ」段階で日本とつながりの深い国々に対する興味・関心や疑問をもち、「しらべる」「まとめる」段階で文化や習慣について理解した後、「つなぐ」段階で、児童の生活に直結する小金井市の外国人との接点について考える単元構成とする。これにより、異なる文化や習慣を尊重し合う大切さは「誰かがやればいい。」「いつか、どこかでやればいい。」ではなく、「今、自分の町でも、自分自身にも必要である。」という切実感を児童がもてるようになることをねらう。また、小単元を通して得た知識や思考を、実生活の場と結びつけて考えることができ、今後も日常生活の中で世界の人々と共に生きていくために大切なことについて考え続ける態度が身に付くことを目指す。

※　地域教材・地域人材は、具体的に以下のものを取り扱う（資料「小金井市の国際理解イベント」、「小金井市で外国人と関わる方々の話」）。なお、地域教材については、一つ一つ調べるのではなく、大まかに内容を知り、興味があればインターネットで詳しく調べるようにする。

地域教材 （小金井市で外国人と関わりのある行事等）	・小金井市民交流センター　・国際交流ミニ運動会 ・小金井市日本語スピーチコンテスト　・うどん打ち体験会 ・やさしい日本語（ワークショップ） ・外国人留学生との交流学習
地域人材 （小金井市で外国人と関わりのある人物）	・小金井市役所コミュニティ文化課文化推進係　係長　Ｔさん、主事　Ａさん ・外国人支援・交流団体　ちＱ人　代表　Ｈさん ・外国人留学生　　・ＡＬＴ（東小学校勤務）

⑶ 児童が主体的に問いを追究するための学習活動の工夫

日本とつながりの深い国を調べるにあたり、児童がつながりを感じた国や、問いの追究に必要だと考える国は多岐に渡る。そのため、児童が主体的に問いを追究できるよう、教師が国を指定せず「しらべる」段階は自由進度学習とする。指導にあたっては、以下の点に留意して進める。

ア 社会的な見方・考え方を働かせるため、調べる基本的な視点を設定する

児童が国を調べる際、すべて自由にすると何を調べてよいか迷う可能性がある。そこで、「つかむ」段階でどのようなことを調べるか学習計画を立て、位置や広がり、相互関係といった調べる基本的な視点を確認し、社会的な見方・考え方を働かせながら調べることができるようにする。

イ 効果的に調べるための資料を提供する

児童が日本とつながりの深い国を調べる際、教科書や資料集に載っていない国も多いため、本やインターネットを活用することが有効だと考える。しかし、むやみにインターネットを検索しても根拠のある情報が出てくるとは限らず、調べるのに時間のかかる児童もいると考えられる。そこで、学校司書や地域の図書館と連携し、国調べに有効な本を借り、授業や休み時間に自由に閲覧できるようにする。また、共有アプリケーションソフトを活用し、外務省のホームページなど、信頼できるホームページを一覧にして児童に示し、調べる際の支援とする。

ウ よりよい学び方を獲得できるよう必要に応じて支援する

自由進度学習では、児童の主体性に委ねて問いを追究していくが、学び方に困っている児童は教師が支援して「問いの追究の仕方」を都度教えていく。教師は学習内容の選択や進度は自由にするが、授業中の机間指導や、毎時間の授業後の振り返りを通して学習の進捗状況を把握する。うまく進めることができない児童には、児童が調べてみたいことを一緒に確認して言語化したり、効果的な資料を伝えたりしながら、よりよい学び方を獲得できるよう支援していく。

⑷ 児童の自己調整力を高め、主体的に問いを追究し続ける力をつけるための評価の工夫

児童が学習の中で、主体的に問いを追究し続ける力を身に付けるには、自分自身の学習の状況を客観視できることが大切だと考える。そこで本小単元では、毎時間の振り返りを１枚のシートに記述し、いつでも見返すことができるようにする。これにより、１時間ごとの自己の思考の変容や教師からの評価を児童自身が把握しやすくなることをねらう。

特に、「しらべる」段階の自由進度学習では、振り返りを「学びの内容」と「学び方」の二つの観点で行い、児童が学習の内容を深められたか、望ましい学び方ができたか自己評価を行う。児童の自己評価を教師も確認し、児童への価値付けや指導を適宜行うことで、児童が適切に本小単元での知識・技能を身に付けることができ、主体的に問いを追究し続けるための自己調整力を高めることができるようにする。

８ 本時（全９時間中の第９時）

⑴ 本時の目標

世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとする。

⑵ 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点、配慮事項 ※資料	【評価規準】 （評価方法）
導入 ５分	○ 前時までの学習を振り返る。 ・ 日本とは文化や習慣が違っても、お互いに尊重し合うことが大事だ。 ・ 小金井市でも日本人と外国人が一緒に生活するために努力している人たちがいる。 ○ ９月の自分たちの意見を振り返り、自分たちと外国の人々との関わりの現状について考える。 ・ 文化や習慣を尊重するのは大事だと思っているが、トラブルに直面したとき、本当に尊重できるかまだ不安はある。 ・ 前は外国人が次々と日本に来るのは迷惑だと考えていたが、今は、一緒に楽しく生活していけるよう努力したいと思う。	・ 学習問題に対する自分の考えを振り返ることで、異なる文化や習慣を尊重することは大切であることを確認する。 ※ ９月の児童アンケート ・ 学習の以前は異なる文化や習慣を尊重するのは難しいと感じていたことを確認し、本時の展開につなげる。	

展開 32分	世界の人々と共に生きていくために、わたしたちには何ができるのだろう。 ○　学習問題に対する自分の考えの中から、「わたしたちにできる（やりたい）」と考えたものを順位付けし、グループで共有する。 ・　私は「外国語を学ぶ」を一番しっかりやっていきたい。文化や習慣の違いを認めるには、相手が伝えたい内容を正しく理解できたほうがよいと思うから。 ・　私は「積極的に交流する」が一番だと思う。小金井市でも外国人と交流できる場がたくさんあることを知ったので、自分も参加してみたいと感じたから。 ・　「文化の違いを認める」がやはり一番だと思う。学習を通して、宗教で食事が変わることを変だと思わなくなった。自分との違いを認めることで、偏見は無くしていけると感じた。 ○　グループで話し合ったことを全体で共有する。 ・　このグループは、最終的に「外国人と話す」を上位にした人が３人になった。私は、最初は「外国について調べる」を上位にしていたが、友達が調べるよりもまず交流してみることが大切だと言っていて、その意見に納得したから順位を変えた。	・　あえて順位を選択することで、内容についてより詳しく考えることができるようにする。順位を低くした考えが悪い考えではないことを確認する。 ・　ピラミッドチャートで考えを視覚化しながらグループで伝え合うことで、多様な考えに触れることができるようにする。 ・　前時までに作成した表を活用することで、調べて分かったことを根拠に考えをもてるようにする。 ・　友達が上位にした「できる（やりたい）」ことについて、理由や意味も含めて共有することで、世界の人々と共に生きていくために大切なことを多角的に考えることができるようにする。	
まとめ ８分	○　本時の学習を振り返る。 ・　小さな頃から「みんなで多様性を認め合うのは大切」と言われてきて、何となくそうだと思っていたが、今まで「みんな」の中に自分も入っていることに向き合ってこなかった。学習を通して、自分にもできることがあると意識できた。多様性を認めるのが大切だという考え自体は変わらないが、以前よりも、より深く、その大切さを実感できるようになった。	・　次の小単元では、本小単元で学んだ私たち個人の関わりから、国同士の関わりに発展して世界の未来について考えていくことを示し、小学校社会科での最後となる学習への期待感をもてるようにする。	【ウ－②】 学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとしている。 （ワークシート記述分析）

⑶　板書計画

２月 24 日（火）

世界の人々と共に生きていくために、
わたしたちには何ができるのだろう。

ピラミッドチャートのまとめ方の例示	「まとめる」段階で作成した、調べた内容をまとめた表

○わたしたちにできる（やりたい）こと
「外国語を学ぶ」
……相手が伝えた内容を正しく理解すると文化や習慣の違いも理解しやすくなる。
「文化の違いを認める」
……今まで変だと思っていたことが、自分の偏見だったと気が付けた。
「積極的に交流する」
……まずは話すことで、相手のことが分かる。

○ふり返り

⑷　授業観察の視点
- 自分の考えに順位付けする活動は、児童の思考を深めるのに有効だったか。
- グループでの活動は、児童が多角的な考えをもつのに有効だったか。